

いつからだろう？ 私たちが不都合な真実に目を背け続けるようになったのは、いつからだろう？ 私たちが多様な価値観を理解しなくなってしまったのは、私たちは演劇表現を通して、「自由や民主主義が存在する社会」を目指してきました。ナシヨナリズムによらない自由な表現を展望することによって、描かれる未来像とは？ 演劇は、現代の市民社会で、どんな力を発揮できるのか？

## 表現の自由 と 私たちの演劇

顧みれば、演劇は言論を左右する大きな役割を担ってきました。

私たち表現者は、今回の『演劇大学』という機会を通じて、今一度自分たちのコトバを見つめ直し、「自由や民主主義が存在する社会」をつくり出す行為について、再認識したいと考えています。

そこで、現代思想・教育・民主主義の観点から、様々な分野で活躍する有識者をお招きし、関西を拠点に活動する演劇人・表現者との対話の場を設けたいと思います。

前期

- 第1回「公的助成と演劇」2016/10/13(木) 佐藤千晴(大阪アーツカウンシル統括責任者)
- 第2回「メディアの成熟と社会～世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい」2016/11/24(木) 森達也(映画監督)
- 第3回「漫画と演劇」2016/12/15(木) 高取英(劇作家・演出家・マンガ評論家・編集者)

後期

- 第4回(仮)「高校演劇にみる表現の力」2017/1/7(土) 吉田美彦(日本学校演劇教育会関西支部事務局長)
- 第5回(仮)「私たちの生きるこの社会を俯瞰してみる」2017/1/19(木) 西谷文和(フリージャーナリスト)
- 第6回(仮)「表現の自由と政治介入、およびメディアの自主規制について」2017/2/19(日) 永井愛(劇作家・演出家)

文化庁委託事業「平成28年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」

演出家・俳優養成セミナー2016 【会場】ドーンセンター 5階 視聴覚スタジオ

# 演劇大学 in 大阪 2016



文化庁  
Agency for Cultural Affairs  
Government of Japan

# 演出家・俳優養成セミナー2016

## 演劇大学 in 大阪 2016

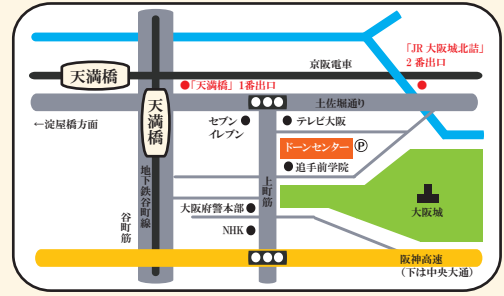
【前期】2016年10月13日～12月15日

【後期】2017年1月9日～2月19日

【参加費】一般・学生 / 500円 (協会員は無料) 高校生 / 無料

【お申込・お問い合わせ】一般社団法人 日本演出者協会 関西ブロック事務局  
TEL/080-4025-2202 (関西ブロック事務局)

E-mail/kansaiblock@yahoo.co.jp



〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号  
京阪「天満橋」駅下車。東口方面の改札から地下通路を通って1番出口より東へ約350m。  
地下鉄谷町線「天満橋」駅下車。1番出口より東へ約350m。  
JR東西線「大阪城北詰」駅下車。2番出口より土佐堀通り沿いに西へ約550m。

### 「公的助成と演劇」10月13日(木) 19時 - 21時

劇団にとって、公的助成とはお金だけでなく、「活動を公的セクターに広報する」意味も持つ。  
助成する側にとっては現場のリアルな情報を集めるツールでもある。申請書類を通したコミュニケーションという視点から考えてみたい。



### 佐藤千晴 Sato Chiharu 大阪アーツカウンシル統括責任者

東京生まれ、千葉育ち。早稲田大学第一文学部(社会学専攻)卒業後、朝日新聞記者に。  
徳島支局で警察回り、高校野球取材、選挙取材の「新人記者3点セット」を経験後、  
大阪本社芸芸部(現・生活文化部)に勤務。衣食住など暮らし、芸能、文化の3分野を担当したが、  
最も長く取材したのは音楽分野(主にクラシック)。異動で整理部(紙面編集)、デジタルの経験も。  
退社後の2013年6月、大阪府・大阪市が共同設置した大阪アーツカウンシルの統括責任者に公募で就任。  
音楽、演劇、美術、古典芸能なども広くフィールドワークし、大阪からの文化発信を支えるプランを考える日々を送っている。

### 「メディアの成熟と社会 ~世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい」11月24日(木) 19時 - 21時

メディアが進化すれば平和で豊かな未来の実現に近づくことができると、僕たちはかつて思っていた。でも現実とは逆だ。  
企業として成熟したメディアは、市場原理にとらわれながら多様な多面的な情報を単純化してしまう。つまり世界が矮小化される。  
ならばどうすべきか。どう考えるべきか。一緒に考えましょう。



撮影/山上徳幸

### 森達也 Mori Tatsuya 映画監督・作家・明治大学特任教授

テレビ・ディレクターだった1998年にドキュメンタリー映画『A』を公開。  
2001年、続編『A2』が、山形国際ドキュメンタリー映画祭で特別賞・市民賞を受賞する。  
主な著書は『A』『クオン・デ』(角川文庫)、『放送禁止歌』(光文社知恵の森文庫)、  
『下山事件』(新潮社)、『王さまは裸だと云った子供はその後どうなったか』(集英社新書)、  
『ぼくの歌・みんなの歌』(講談社)、『死刑』(朝日出版社)、『オカルト』(角川書店)、『チャンキ』(新潮社)など。  
2011年に『A3』(集英社)が講談社ノンフィクション賞を受賞。  
2016年には新作映画『Fake』を発表。

### 「マンガと演劇」12月15日(木) 19時 - 21時

カウンターカルチャーとして、マンガとアンゲラ演劇は60年代後半、ともにあった。  
寺山修司が「あしたのジョー」の力石徹の葬式を行ったのが有名か。しかし、斎藤藤が、自土三平の「赤目」を演劇化させるなどの例があるが、  
マンガの演劇化は小劇場では小説に比較するとさほど多くない。メジャーでは宝塚歌劇の「ベルサイユのばら」など有名だが、  
竹宮恵子「疾風のまつりごと」梶原一騎+ながやす巧「愛と誠」さいとうちほ+ピーバパス「少女革命ウテナ」新田たつお「静かなるドン」など  
マンガ作品を演劇化してきた立場から、マンガと演劇について語ります。



### 高取英 Takatori Ei 劇作家・演出家・マンガ評論家・編集者

京都精華大学マンガ学部マンガプロデューサーコース学科教授を経て、大正大学表現学部客員教授、月蝕歌劇団代表。

1952年大阪府堺市に生まれる。大阪府立岸和田高等学校、大阪市立大学商学部卒業。  
学生時代、白夜劇場を結成し、1974年、「白夜月蝕の少女航海紀」を脚本・演出。これが演劇のデビューとなる。卒業後、寺山修司の取材・出版スタッフを務めた。  
1980年、演劇団公演「月蝕歌劇団」(演出・流山児祥)という作品で東京デビュー。1982年、戯曲「聖ミカエラ学園漂流記」を書き、これがヒット。  
後に、バンダイなどよりアニメ化。自身が小説化、藤原カムイがマンガ化。  
1986年に劇団「月蝕歌劇団」を旗揚げ、多数の作品の脚本・演出をする。2007年本多劇場で、団鬼六原作「花と蛇」を脚本・演出で上演。  
また2007年8月及び2009年8月、紀伊國屋ホールにて『寺山修司 - 過激なる疾走』を原作・脚本・演出で上演した。  
1996年、脚本・演出作品である「ドグラ・マグラ」(原作・夢野久作)は、モスクワ、サンクトペテルブルク(ロシア)でも上演。  
2009年、スロベニア国際演劇祭に招待され、エヴァルド・フリザール作品「What about Leonardo?」を上演。  
2013年、スロベニア国際演劇祭に招待され、エヴァルド・フリザール作品「Tristan and Iseult: a play about love and death」を上演。  
自作の他、寺山修司、濵澤龍彦、団鬼六、沼正三などの幻想文学系作品、竹宮恵子、梶原一騎、新田たつおなどのマンガ作品を月蝕歌劇団で演劇化している。  
2015年、WOWOWがノンフィクションドキュメンタリーとして『暗黒のアイドル、寺山修司の彼方へ〜「月蝕歌劇団」30年の挑戦〜』を4回放映。本人も出演。

